

1. 単元名 円サッカー（ゲーム）

2. 指導にあたって

本学年の児童は、2年生の「カバディ」で作戦を立ててゲームをした経験はあるが、内容は、チーム全体の動きというより個人やせいぜい2人での動きが中心の作戦であった。3年生では2学期になってからラケットベースボールの授業を通し、自分たちで作戦を立てたり練習したりする経験をしている。しかし、話し合いでは、発言力のある児童の意見が取り入れられたりしてチーム全体で話し合うまでには至っていない。また、作戦などはまだチーム全体の動きとはならず、個人の動きを考えていることが多かった。さらに、審判の経験もしたが、思い切った判定ができないときがありクレームの出ることもあった。

円サッカーは、従来の攻防相乱のゲームとは違い、攻防分離であるため、攻めと守りの両方を同時に考えなくてもよい。人数も少なくして作戦を成功させやすくしたゲームである。円形のコートの中にゴールがあり、ディフェンスはいるものの、ゴールの周囲のどこからもシュートできる。そして、攻撃をしている味方を全員見ることができるために、パスをする相手を見つけやすい。つまり、誰にパスすればよいか判断しやすく、作戦を実行しやすいゲームである。

学習の流れとしては、最初の課題を「円サッカーをしよう」とし、まず、子どもたちはすぐシュートをしたがるので、自分でドリブルし、目の前にディフェンスがいてもかまわずシュートして、ディフェンスに当たるかゴールをはずす場面が多く見られるだろう。次に、パスをまわすとディフェンスがふられ、シュートチャンスが多くなることに気づいてパスをまわしてシュートしようとする（「パスをつないでシュートしよう」）。しかし、ディフェンスもついてくるので、なかなかゴールできない。そこで、単にパスをまわしてシュートするのではなく、ディフェンスのいないところにパスをして、相手のスキ（守りとのズレ）をついてシュートすることが有効なことに気づくだろう（「まもりのスキをついてシュートをしよう」）。

また、学習を通して、みんなで準備や後片付けしたり、作戦カードの記入をしたりをすることの大切さ、審判も練習して上手になっていく過程であるために、自分の思いとは違う判定になってもその判定に対して素直に従うこと、対戦する相手がいるからこそゲームができるということ、そして、相手チームに対して感謝の念を持つことなども、理解させていきたい。

初めはボールを扱うことが苦手だった児童も仲間との練習やゲームを重ねていくうちに技能が上達し、パスがうまくつながってゴールした瞬間には「やったあー」という歓声を聞きたい。

3. 単元のねらい

- サッカーの簡単な技能を身につけ、チームみんなでルールや作戦を工夫して円サッカーを楽しむことができる。【知識・技能】
- ルールやマナーを守り、安全に気をつけ、勝敗を素直に認めることができる。【主体的に学習に取り組む態度】
- チームで協力し、作戦を考え、互いの特徴を生かし高め合う練習ができる。ゲームでは、勝敗を認め、楽しくゲームに取り組むことができる。【思考・判断・表現】

4. 人権教育の具体

(1) ねらい：互いに教え合い、励まし合って、自他の努力を認め、自尊感情を高めることができる。

(2) 内容：3-(2)-ア

(3) 具体的な取り組み

- ・ 朝の会、終わりの会などの時間を活用し、司会と記録を輪番制にして作戦会議を行う。互いの技能特性を活かした作戦をみんなで考えることで安心感を味わう。
- ・ チームの作戦遂行に向けた技能修得練習メニューをチーム内で決定し取り組み、達成感を味わう。(休み時間の練習を許可)
- ・ 得意な児童が苦手な児童を上達させることで互いに有用感を味わう。

5. 単元計画

時間	共有課題	学習活動	相互作用の観点	評価の観点 (・) 教科 (○) 人権
1	円サッカーをしよう	【全て、チームの人と共に相談しながら取り組む。】 ・シュートやトラップ、パスなどの基本的な技術がわかる。 【得意、苦手なチームメイトの特徴を知る。】 ・ルールを理解しゲームを行う。 ・審判の仕方を知る。	・円サッカーのルールを理解してゲームをしているか。 ・シュートやパス、トラップの指導。 ・迷いながらも審判ができていますか。 【協力し合っているか。】 【人との関わりを楽しめているか。】	○チーム内でコミュニケーションが図れている。 ・円サッカーのルールを理解している。【知・技】 ・ボール操作の名前を覚えている。【知・技】 ・審判ができる。 【知・技】
2				
③ 本時	パスをつないでシュートしよう	【チームの戦力を向上させる練習を見つけ、実践する。】 ・キック、パス、トラップなどの基本的な動きができる。 ・パスをつないでシュートする作戦を立てる ・ルールを理解し審判をする。 ・パスをつなぐと守りのズレができ、そこからシュートできることに気づく。 ・ねらってパスやシュートをする。	・シュートやパス、トラップなどの技術がある程度できるようになっているか。 ・パスをつないでシュートする作戦になっているか。 ・ルールを理解して審判をしているか。 ・ねらった所にパスやシュートをしているか 【互いの気持ちに寄り添いながら話し合うことができているか。】	○自分の役割を理解している。 ・基本的なボール操作ができる。【知・技】 ・パスをつないでシュートする作戦を立てている。【思・判・表】 ・ねらってパスやシュートをしている。【知・技】 ・ルールを理解して審判をしている。【知・技】
4				
5				
6	スキをつけてシュートしよう	【チーム内で互いに肯定的・矯正的フィードバックし合う。】 ・パスをつないでマークされていない味方を見つけ、パスできる。 ・マークからずれてボールをもらおうとする ・ノーマークになってシュートができる。 ・審判として迷わずに判定ができる。	・ノーマークの味方を見つけられているか ・パスをまわして相手とのズレを作る作戦を立てているか。 ・パスをまわして相手とのズレを作ってシュートしているか。 ・迷わずに判定しているか。 【チーム全体の士気を高め技能修得向上を目指しているか】	○自他の役割を理解し、自他を活かしている。 ・ノーマークの味方を見つけている。【知・技】 ・パスをまわして相手とのズレを作る作戦を立てている。【思・判・表】 ・迷わず判定している。【知・技】 ・ねらったところにボールを蹴っている。 【知・技】
7				
8				
9	円サッカー大会をしよう	【自他チームの努力(成果)を認め、互いの課程を賞賛する。】 ・今までの作戦を活かしてゲームができる。 ・審判としてはっきりとした判定ができる。 ・円サッカーを楽しんでいる。	・今までの有効な作戦を使っているか。 ・自分の判定に自信を持って審判しているか。 ・円サッカーを楽しんでいるか。 【チームの枠を超え、互いに励まし合うことの尊さを味わえているか。】	・有効な作戦を立てている。【思・判・表】 ・自分の判定に自信を持って審判している 【知・技】 ・円サッカーを楽しんでいる。【主】 ○自尊感情を高めることができる。
10				

5. 本時の学習 3 / 10

(1) ねらい

- ・ 味方やゴールをねらってけろうとしている。
- ・ パスをつないでシュートしている。

○ チームのメンバーの特徴を知り、互いに寄り添い励まし合って、技能の修得向上に努めることができる。

(2) 展開

児 童 の 活 動	教 師 の は た ら き か け
<p>1. 準備運動をする。(各チーム)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ストレッチ <p>2. ドリルゲームをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ボールタッチ、インサイドキック、パス&ゴー、とりかご、など。 <p>○ 事前の話し合いで決定したドリルメニューをこなす。</p> <p>2. 今日の課題を確認する。</p>	<p>・ 声かけなどで、伸ばしている部分を意識させる。</p> <p>・ 足の裏で軽く触るように意識させる。</p> <p>・ 踵を出す方向やつま先の向きの確認。</p> <p>○ 矯正的フィードバックの言葉遣いに着目し、良い例を全体に紹介することで、よりよい言葉を見つけようとさせる。</p> <p>※ 肯定的フィードバックができていない児童を褒める。</p>
<p>パスをつないでシュートしよう。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 全員で共有課題を確認する。 <p>3. チーム練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 課題に向かった練習をする。 ・ チームごとに自分たちの課題に迫ることができるように練習する。 <p>4. ゲームをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3試合 <p>5. 本時のまとめをする。</p> <p>6. 整理運動をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシートの朱書きの内容などを参考に、課題に迫ることができるように情報を提供する。 ○ 個人・チームワークシートより、児童の記述を紹介する。 <p>・ 課題が理解できているか確認する。</p> <p>・ 練習が課題に迫っているか巡視し確かめる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">相互作用の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ パスをつないでシュートしようとする。 ・ 相手の隙間をつく動きをしようとする。 <p>【互いの気持ちにより添った言葉かけができています。】</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ どのようなパスが有効なのかについて考えさせ、次時の「隙間をつくパス」につなげる。